



双松会会報

第31号「双松会」通巻35号「松高北高同窓会報」通巻35号

発行 松江市奥谷町164番地

高根県立松江北高等学校内 双松会事務局 TEL: 21-4888

FAX: 21-4977

印刷 株式会社高根県農協印刷

TEL: 21-3476

青春のライオン Vol.8

高校20期(昭和44年卒)

四十年余の歳月を経て

昭和四十三年十二月二十九日、文部省は翌年の東大入試の中止を発表した。この年、全国の大学で学生運動が燃え盛り、とりわけ注目された東大では学生たちが安田講堂を占拠するに至っていた。年が明けると、機動隊と学生との間で放水と火焰ビン、投石の派手な応酬、世にいう「安田砦の攻防戦」が世間を騒がせたのであるが、昭和四十四年の卒業生となる私らには何とも迷惑な話であった。



杉原 秀範

東大入試中止で他大学の門が例年よりずっと狭くなる。受験生はトコロテン式にランクの低い大学へ流れると予想されるので、志望校のレベルを落とさないと合格が危ういと言われ、急きょ個別の進路指導面談が開かれた。あくまで志望を買った者は少なかつたと思う。

前回はランクを二つ下げる」と指導されたことは棚に上げて、のちに「本来は東大に行くはずだったが入試が中止で」と厚顔無恥の放言を始めた者も少なかつたようである。受験教育の弊害は当時から指摘されていた。が、いつかこの欄で同期の渡辺悟君が書いていたように、この高校には、その息苦しさを凌駕する質実剛健の伝統と自由な校風があった。先生と生徒が酒を酌み交わしながら、人生を、恋愛を、芸術を語り合う、まるで熱血マンガみたいな古き良き時代であった。

さて、「夢のような日々」から四十年余、紅顔の美少年、深窓の可憐な乙女も、はや還暦である。去る六月十二日、還暦記念同窓会を開催した。たまたま私らが世話役となったが、節目の年とあってか、二〇期では過去最高の参加者だった。準備には一年以上をかけたのに、当日はあっという間に終わってしまった感がある。前日当日のドタバタキャンと無断欠席数名、回答なしの突如出席二名は北高の大方かさか、最終出席者は一四二名。卒業以来初めて同窓会に出た者も十数名。受付周辺で懐かしい顔を見つけて早くも上がる歓声。厳かに宮司さんのお戒いを受け、この日を迎えることな



く亡くなった友二十数名に黙祷を捧げ、ご臨席を賜った田口意彦先生、井田幸男先生とともに校歌を斉唱してスタート。梶成人君の音頭による乾杯の後は当然のように無秩序騒乱状態。司会の福岡俊夫君の声も届かないというか誰も聞いていない。何のアトラクションもなかったが、皆楽しそうな様子で、あちこちで笑顔と歓声ははじけていた。名残は尽きないところ、応援歌を二曲声を張り上げて歌い、中締めとした。二次会にも八十人以上が繰り出して大騒ぎ。その後は好勝手に分散、誰が何次会まで行ったのかわからない。不手際はいくつもあったが、まあ、喧嘩も救急車こともなく無事に終わったのでよしとさせてもらいたい。終えてみて気になるのは、住所不明のため案内を送れな

届いた約一〇〇名と、案内が届いてはいるはずなのに欠席回答を送って来なかった約二〇〇名のこと。考えすぎと言われるが、消息のはっきりしている者を除いて、彼らの境遇や心境に思いを馳せざるを得ない。どうしているのか教えてほしい。開催時期の選択も難しい問題だ。今回六月にしたのは、主に、盆や正月は忙しくて出られないであろう奥様方へ配慮してのことである。出席者から不満は聞かれなかったが、逆に、こんな時期には帰省できないと欠席した人も多かっただろうから、その方々には申し訳ないと思う。いざれ大半がリタイアして時期を気にすることを願いたい。最後に、まだ未定ながら、そう遅くない時期に次回同窓会が開催される模様なので、二〇期の皆さん、今回の参加者も、残念ながら欠席だった方々も次回ぜひ参集していただき、今回以上の盛り上がりになることを祈っております。



ごあいさつ

会長 庄司 肇

皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

今春三月には五〇六名の生徒達が松江北高を卒業し、双松会の会員に加わりました。それにより双松会の会員数は四〇、三六〇名となりました。

さて、今年度は本校卒業(高校二十一期)の勝部昌幸校長を迎え、学校は益々張り切っており、伝統の質実剛健の精神のもと勉学に、部活動にと活躍をしております。五・六月に行われました島根県高校総合体育大会においては三年連続、二十三日目の男女総合優勝をし、全国大会に陸上部を始め多くの選手が出場し活躍しております。野球部は夏の高校野球県予選で三回戦まで進出しましたが惜しくも涙を吞みました。

七月二十四日には双松会役員会総会が開かれ、会務の報告、同計画、また決算、予算が承認されました。

百三十五周年記念大会を来年十一月十九日(土)にホテル一畑で開催することが報告されました。会員の皆様が全国から参集され、大会が盛大に行われるよう、ご参加をお待ちしております。

来年度発行予定の同窓会名簿についての計画の発表がありました。住所調査等、会員の皆様にはご迷惑をかけることがあると思いますが、立派な物を作成

したいと思っておりますのでご協力下さい。さらに気になることがあります。最近名簿をご購入いただく数が減少しております。ぜひご購入にご協力をお願いしたいと思います。



赴任あいさつ

校長 勝部 昌幸

双松会の皆さまには、ますますご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校への温かいご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

私は、今春の人事異動により松江市立女子高等学校より赴任して参りました勝部昌幸と申します。私事になりますが、私は北高21期の卒業生です。校舎は川津校舎でありましたが、その頃赤山にあった松江市立第一中学校の出身でもありますので二本松もなじみが深く、また生まれ育った家も近所であり、この赤山の地に勤務できることは幸せに思っています。その反面で、任の重さを感じる母校勤務であ

余剰金等を双松会に寄附をいただくことがあります。その中で今年四月に、北高一期(高校十三期)の同窓会が開催されました。六月には同役員会が開かれ、同窓会用の校旗と校歌幕を寄贈いただきました。感謝申し上げます。貸し出し希望の方は事務局まで申し出下さい。

も三連覇の偉業を達成いたしました。前人未踏の五連覇に向けて一・二年生たちの部活動が始まっています。野球部は、全国高校野球選手権大会島根県大会において今年も三回戦まで進出いたしました。浜田商業高校に二対三で惜敗しました。とてもですががしいいチームに仕上がっていました。夏休みには全国高校総体が沖縄県で、全国総文祭が宮崎県で開催予定ですが、本校も県代表として多数の生徒を送り込みます。今現在ですが、合唱部、吹奏楽部とも全国コンクール出場目指して練習に励んでいます。このように生徒たちは、先輩方から引き継がれた「文武両道」を合言葉に、精一杯頑張っております。

述べたように百三十四年の本校が積み上げてきた伝統方針を堅持することが不易とするならば、それだけでなく社会環境の目まぐるしい変化の中で教育への期待も考え方も変貌しつつある中、それに対応する独創的な教育システムを取り入れていくことも是とする流行にも着目していきたいと考えております。

また、今年の四月より通信制課程は安道町に開校した単位制高校島根県立安道高校の校舎に移りました。昨年度からの在校生は籍は本校にありますが、今年度からの入学生は安道高校籍となります。

私は四月以来、努めてChime To Chimeで教員の授業を参観するようにしています。ひいき目に見ていること

ところで、わが校のシンボルである双松も平成十三年に二本目が枯れ、現在二代目の双松が育っていることはご承知のことと思っております。現役の生徒たちはもちろん現職の教員もこの双松の謂れを知らない者も多くな

me To Chimeで教員の授業を参観するようにしています。ひいき目に見ていること

「質実剛健」の精神を話ししました。順調に二代目が育てば、二十二世紀を迎える頃の今の生徒たちが、双松の下で自分の孫たちに赤山の青春時代を語り継ぐことになると思います。

私の本校の経営方針は、先に

細で細やかな感情も、持ちあわせています。私の過ごした北高時代と比較して、そんな後輩たちを時折愛おしく感じることもあります。この生徒たちの将来の夢の実現のために、一生懸命支援をしていかなければと思

すようお願ひ申し上げます。終わりになりましたが、双松会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念いたしました。着任のご挨拶とさせていただきます。

恩師ふたたび



田口意彦

田口庵の思い出

袋戸棚の戸の裏に明治六年源之助作と記録された棚のある古い家である。生徒諸君は田口庵と称して、夕方にもなると誰誘うともなく数人から十数人の者が集まって来る。話す者、食べる者、泊り込む者、さまざまである。そこで良い事も悪い事も――私は決して悪い事とは思わないが――習得して学生時代の思い出を作つてゆく。その中に常に我が家に来て話したり勉強したりという真面目な生徒がいた。(M君) 彼は田口家にはテレビが無いと言つて、自分の家の、今で言う粗大ごみのテレビを持ち込み、ここにも文化が入つたと言つて悦に入つていた。

他の生徒曰く、「ああ田口庵にもとうとう文明の利器が入つたのか、嘆かわしや、嘆かわしや。」そんな心優しい生徒達であったが、ある時M君は某大学の学生と一緒に近く実行する火炎ビン闘争の間であるという噂を耳にした。私は教員として二人で夜を



このコーナーは松江中学、松江高校、松江北高校で教鞭を執られた先生に当時を偲んで執筆していただいています。
田口意彦先生のプロフィール
昭和40年～51年
教員として勤務

事務局だより

○寄付金のお礼

以下の皆様方より寄付金を頂戴しました。ご披露に併せ厚くお礼申し上げます。

- ・1期大野光健様一万円
- ・13期一同様一〇万円
- ・東京双松会様一万円

○会報編集助成金のお礼

会報発刊に関わる諸経費への援助として次の方々より浄財を賜りました。

- 厚くお礼申し上げます。
- ・立岩 淳一様
- ・米沢 彰子様

○校章・校歌募寄贈のお礼

13期の皆様の寄付金のうちで、校章・校歌幕を寄贈いただきました。併せてお礼申し上げます。

貸し出しもできますので、同期会等の折にぜひご利用ください。

○各支部の総会(予定)

- 東京双松会
平成22年11月7日(日)
会場・アルカディア市ヶ谷

広島双松会

平成22年11月13日(土)
会場・広島ダイヤモンドホテル

近畿双松会

平成22年11月28日(日)
会場・中之島中央公会堂

米子双松会

平成23年2月中
(詳細は後日)

○創立百三十五周年記念総会開催のご案内

期日・平成23年11月19日(土)
会場・ホテル一畑(松江市)

来年はめでたく創立百三十五周年にあたり、記念総会を開催します。詳細は後日改めてご案内いたします。五年に一度の記念総会です。多くの皆様のご出席をお待ち申し上げます。

○同窓生名簿「双松」発刊予定のお知らせ

時期・平成23年11月予定
予価・五千円

記念事業として同窓生名簿を発刊いたします。このたびは発刊に関して業者に委託することとなりました。

会員の皆様あてに委託業者から記載事項の照会があるうかと存じます。ご協力くださいますようお願い申し上げます。

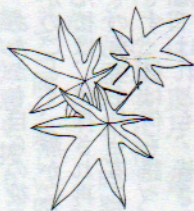


Table with financial data for the association's accounting report, including income and expenditure sections.

二本松(双松)について

新生松の会

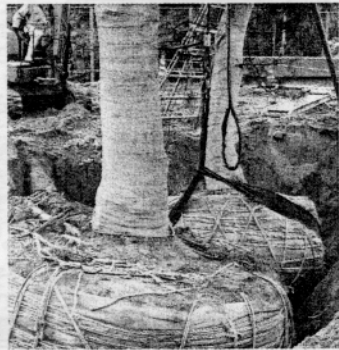
座長 井原 泰
(高校3期)

松江中学、松江高校、松江北高校と続いたこの長い歴史の中で、二本松は常にこの学校の中心に位置する存在でした。明治三十年に松江北高校の前身松江中学の新校舎が赤山に竣工致しました。その時、二本松は塩野門之助家より永世保存することに条件に譲渡されました。(塩野家は安政三年に松平家より樹齢二十年の若松をいただき手植えたものです)。明治後期から大正中期にかけ、十三年の長きにわたって、松江中学校の校長として大きな功績を残された西村房太郎先生が、時代の合言葉の如く教育の世界に流布していた「質実剛健」の語に、新しい生命を吹き込まれ、これを松江中学校の教育精神の根幹となされると



植え替え中の二代目

共に、二本松をそのシンボルとして位置づけられたことは、当時の卒業生のあまねく知るところで



した。二本松とはそのような精神的意味を担った存在でした。昭和四十一年に創立九十周年記念式典がありました。その時「昭和二十五年、西川津に移転していた北高校を赤山の故地に移転し、双松のもとで「質実剛健」の伝統を再現する」との宣言を決議しております。

昭和五十三年四月。念願の赤山に帰ってきました。五月二十一日、二十二日には創立百周年記念式典がありました。当時、記念委員会名誉会長、田部長右衛門氏は式典の祝辞の中でこの様に話されています。

「一世紀に亘る本校の光輝ある歴史を替え、且つ双松の翠緑に映える白亜の学び舎の竣工を祝福することは、私の心からの喜びであります」。

松江北高校十二代校長三浦富登先生は「双松会報」第三号に「松に想う」と題して校長就任の挨拶をしておられます。四月本校への辞命をうけた

後、就任の挨拶回りをいたしました。その折頂戴した激励の言葉の中に「松を大事にしなさいよ。先輩がやかましいからね」と微笑を持ったご注意がありました。北高には由緒ある二本松、お手植えの松をはじめ、姿形の美しい赤松黒松が実に沢山あります。そのことはかねがね承知していましたが、先輩と松のむすびつきがこれほどまでに密接だとは知りませんでした。そんな次第で正直なところ着任早々から松のことが頭を離れませんでした。近年は松喰い虫の大発生で、山陰の美しい松の緑が荒らされているところがあります。本校の松も被害を受けます。本校の松も被害を受けます。剪定、消毒、施肥など専門家にも依頼し管理計画も立てています。

樹齢二百有余年、松江中学校時代から現在の松江北高校までの「質実剛健」の校風を象徴した赤山健児に慕われて来た二本松が昭和六十二年七月下旬頃から枝葉に枯死状態を呈し、ついに松喰い虫による病木と診断され



植樹の様子(庄司会長)

それから十四年経過した平成十三年、残りの松も松喰い虫のため枯死して伐採することになりました。当時の「双松会」会長井戸内正氏は在校生に次のようなメッセージを贈られました。「私たちは残された一本の松ともお別れすることになりました。生徒の皆さんには、是非とも在りし日の松の姿を懐の奥に焼き付けておいていただきたいと思ひます。もうしばらくのうちに、この木は姿を消しま



植樹の様子(井原常任幹事)

伐採されることになりました。特に赤山で松江中学校を過ごした卒業生諸氏には数多くの思い出が秘められており、昭和六十二年十二月十二日、全国の双松会員に呼びかけて全国総会を開き、訣別・新生の式典が行われました。この日の式には約三〇〇名の卒業生と在校生一、二〇〇名余りが参加、「双松会」の柴田午郎会長が「長い間、ご苦労さま。数々の思い出をありがとう」と挨拶。全員で「赤山健児の歌」を歌いました。このあと、二代目として新しく育てられることになった二本の幼松を植えました。

す。二十一世紀のはじめのこの年に、あたかも自らの役目を果たしたかのごとく、静かに枯れていった松は、伐採され再びこの地にその勇姿を見せることはなれません。けれども、皆さん方が心の中にこの松の姿を留めていてさえいれば、いつも松は皆さんのの中に大きく育ち皆さんの糧となり、支えとなるに違いありません」。

昭和六十二年に植えられた二本の松は二十数年経過してかなり大きくなってきましたが、その内、東側の松が枯死寸前となり、今年の五月から六月にかけて伐採しました。大きく生長しないのは一世の松の根、木に付着しているキノコなどが原因ではないかと考え台地の土を掘り起こし新しい土を入れ替えました。東側には校舎の南側にあった一世の松の実生木を持って来て植え替え、西側の松は元気であったため掘り起こして根なども綺麗にして両方の松を一世の松の様にバランスよく植えました。何十年後には大きく生長してくれるものと思ひます。



新たに植え替えられた二本松

各期だより

松江北高第一期卒「北一会」 「出会いから半世紀」

記念同窓会開催

小谷 威司

春、桜が盛りの四月十七日、午後四時には千鳥町ホテル白鳥の玄関ホールは「お前どげしちよった。ちつとも変らん。」「マーア久しぶり。懐かしいわ。」等々の挨拶代わりの雑談があちこちで盛り上がり、たちまち喧騒に包まれた。私達北高一期同期会(北一会)は、「北一会」〜昭和

和三十四年松高入学・出会いから半世紀〜と題して、卒業の別れからでなく、敢えて入学時の出会いと其の継続をテーマとする会を企画した。その出会いは、昭和三十四年四月九日、皇太子様美智子様御成婚儀式の前日が私達の入学式の日だった。

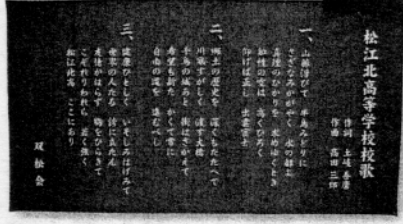
未来・希望・情熱等々に満ち溢れていたあのセピア色の日から半世紀。粘り強く、そして素敵に年輪を重ねつつも、高校時代の面影を色濃く残している参加者たち。

会の幕開けは元BS Sの名物アナウンサー栗原

康郎君の手慣れたコミックな司会で進行した。彼は、この会の開催に当たり昨年からの運営委員長として八面六臂の大活躍。盛会の様相に感慨も一入。

式は校歌斉唱で始まり、物故者(五十二名)に捧げる黙祷、岸宏会長挨拶、そして神庭民生副会長の乾杯音頭で晴れ晴れと開宴した。

歓談の中、有志三名(愛知県県会議員桂俊弘君、NPO活動家大谷勝實君、曾田文庫支援協力者錦織(大島)由紀子さん)が各自活動している会のプレゼンテーションを発表し、会への理解と支援協力を願った。



今回は還暦同窓会以来七年ぶりの開催であったため、各テールは殊の外歓談が盛り上がり、やがて参加者は所狭しと入り乱れ、そこかしこで井戸端会議の様相、いつの間にかメインステージはルーム別、グループ毎の記念撮影場となり順番待ちの混乱状態に。こうして青春の若さを取り戻したかのような喧騒盛況の中、走馬灯のように巡り去る三時間余りの後、最速来の友山田勝君、鈴木(錦織)千代子さん(二人ともくしくも茨城県在住者)の、故郷とその青春時代を懐かしむ挨拶を以って中絶として本会を無事閉会の上、湖畔に美しく映える街の灯を求め二次会会場へと千鳥足。

二次会会場は、惜別の青春時代に共に歩んだ登下校経路・界限に再び賑わいをとの思いから、この二次会の協賛を快く受け入れていただいた飲食店が待ち受ける東本町ネオン街。参加者多数につき満員御礼の店も。そんな中、同期生達はそれぞれのグループ毎にネオン街を闊歩し深夜遅くまで歓談し、次回の再会まで互いの健康を気遣いながら川辺に浮かぶ街の灯りを名残り惜しげに後にした。

今回は古希同窓会の予定。くれぐれも健康に留意され、より多くの同期生の皆様方の積極的な御参加に期待を！

なお北一会では今回の会を

記念として、双松会会員が利用できる校章旗、校歌旗の作成を意図とし金一封を双松会に贈呈することとした。

末尾となりましたが、今回の開催準備期間中急逝された奈良井重則君、田中竹次郎君御両名の、これまでの当会に捧げられた御尽力に対しまして厚く感謝申し上げますとともに、心から御冥福をお祈りします。

北一会は松江高校十三期卒業履歴書には必ず校名変更記載の一行が必要な同窓生です。同窓生の近況は次のとおりです。

卒業時員数 六四七名
現住所把握 五六三名
住所不明者 三二名
物故者数 五二名
今回同窓会出席者数 一七三名

幹事長 岡 美知雄

全国津々浦々約六六〇名の同級生の皆さん、西川津校舎を巣立って早半世紀、年と共に過去を走馬灯のごとく思い出すのが怪しくなったこの頃、リセットすべき標記全国同窓会を左記日程で開催したいと思えます。

セピア色に染まった記憶

**松高12期(昭和36年卒)
卒業50周年記念大同窓会の予告**

を、来年、地デジ元年に再会し、青春時代をより鮮明なものに戻して、残された人生の糧としては如何でしょうか。今、ルーム幹事の皆さんと企画を練っていますが、何か希望等あれば一報ください。尚、詳細は、来年夏頃各ルーム幹事よりご案内いたします。

ちなみに、十月十六日(日)は、松江の伝統行事どう行行列があります。

日時 平成23年10月15日(土)
17時30分
場所 ホテル一畑
(松江六道湖温泉)

**高校21期(昭和45年卒)
還暦記念同窓会のご案内**

卒業していつの間にか四十年が経ち、私たち二十一期生は間もなく還暦を迎えようとしています。

この機会に同窓会をやるうと有志十九名が集まり、左記のように開催することを決定しました。

開催日は、正月、盆、連休を避け、公私共に忙しくないであろうと思われる時期を選びました。

スタッフ一同、楽しい同窓会をと、無い知恵を搾り、準備

を進め、お待ちしております。

日時 平成23年6月11日(土)

夕方から

会場 サンラポーむらくも

スタッフ代表 加島

085212113075

高校31期(昭和55年卒) 同窓会のご案内

西川津校舎と赤山校舎の両方で学んだ我々が三十一期生の皆さんお元気でしょうか。前回一文字家での感激の再会から早や十年。そろそろどげだやという声が集まり、このたび卒業三十年を記念して同窓会を開催することとなりました。

四十代の波を乗り越え、さあこれからの五十代。高校時代を共に過ごした仲間と伴に飲み語り笑い合い、まだまだ青春の意気を上げませんか。先生方もお招きしています。先に案内状をお届けしましたが、宛先不明の方もちらほら。どうぞお知り合いに声をかけをいただき、お誘い合わせの上ご参加ください。新年初湯は玉造で。

日時 平成23年1月2日(日)

午前11時~受付

会場

白石家(玉造温泉)

代表幹事 貴谷 紘行

松本 修吉

東京双松会

地区だより

東京双松会 事務局 泉 宏佳 高校14期(昭38年卒)

昨年の地区だよりで、組織および活動の立て直しについて報告したが、今年度も引き続き活性化に向けての取り組みが行われている。まず、会長など役員人事について刷新を図った。長い間役員を務めてこられた方々に感謝しつつ、当面昭和三十年卒以降にシフトし、いずれは北高世代にバトンを受け継ぐ予定である。一方で昭和四十年代以降の会員掘り起こしも急務であり、各年次の方には「東京双松会」HPなどで参加を要請したい。また、会員には総会以外情報交換の場がないので、今年度から「会報」紙を発行し、会員動向やトピックス紹介などの話題を提供し、双方向の関係強化を考えている。第一号は九月ごろ総会案内に併せて配布を予定している。なお、今年度の総会日は 期日・11月7日(日) 12時から15時半 会場・アルカディア市ヶ谷 (私学会館) JR、地下鉄「市ヶ谷」駅から徒歩二分

双松会地区だより

電話03-3261-9921 部活報告・バスケット部の予定であり、昨年を超える参加を呼びかけたい。東京双松会 事務局 泉 宏佳 高校14期(昭38年卒) 事務所・新宿区西新宿7-16-6 (株)ハウジングエージェンシー内

近畿双松会

地区だより

近畿双松会 事務局長 松本 耕司 高校16期(北高卒業4期)

昨年十一月の年次総会は庄司新会長、金平新幹事長、母校からは永瀬・松田の両先生をお迎えし、九十三名の出席を得て盛会裡に開催することができました。総会では第八代会長に押田良樹氏(高11期)の就任が満場一致で承認されるなど、近畿も新しいスタートを切ることができました。本部、並びに同窓各位のご協力に対し、心から御礼を申し上げます。

一、本年度の活動方針

本年は、五年ごとに周年記念事業を行うと決めた中で中間年の二年目に当たり、活動にメリハリをつけながら、会員の拡大を最優先事業として粛々と活動を進めていく予定です。

二、本年度総会 懇親会 期日・11月28日(日) 正午~午後3時

本年度総会は、会場として永年の夢であった大阪のシンボル、「中之島中央公会堂」をついに籤で引き当てました。千載一遇、思い出に残る総会になると思いますので、近畿以外からも多数のご参加をお待ち申し上げます。

三、その他の主な行事の紹介

- (1) 第30回懇親ゴルフ会 (済み) (2) 第5回「文楽」鑑賞会 (済み) (3) 第3回落語鑑賞会 (9月12日)

高槻市の老舗「亀屋旅館」での「かめや寄席」 昼食会と落語会がドッキングの新趣向

(4) 第5回歴史ウォーキング (10月24日) 平城遷都一三〇〇年祭に賑わう古都奈良を散策

(5) 第4回「都道府県対抗女子駅伝大会」応援(未定)

(6) 平成二十二年「会報」発行(来年3月を予定)

以上、同窓間の世代を越えた親睦・交流のため、又、母校と郷土の発展を願って活動を続けていきます。

四、終わりに 母校では、新しく「双松の兄弟」が誕生したとか。

これを機会に本部と地域双松会、又、地域双松会間の親睦・交流の機会が増えていくことを心から願っています。

お問い合わせ(諸行事参加お申し込み)先

事務局 松本耕司宛 携帯 090-6609-8817 メール kmatsunoto@hi-home.jp 「HP」もご覧ください。各お申し込みもできます。 http://www.kinki-soushokukai.org/

米子双松会

地区だより

米子双松会誕生生活。商都米子で昭和四十三年頃、血気盛んな若手経済人が、事ある毎ネオン街で集うと、米中・米東の応援歌の大合唱を聞かされ、何とか対抗しようと、米吾の健ちゃん(内田健二郎氏(昭20卒))が旗を振り、青年行動隊長として、同窓会の結束を呼びかけた。明治生まれでラフカディオ・ハーン先生もご存知の稲田元長先輩達も大いに喜ばれ、年に何回も集い実質活動が始まった。昭和四十六年当地在住の有志がい集い、赤山で培った結束力と質実剛健の精神をこの地に誇示せんものと、初代会長に

島大(医)第二内科石原国教授が就任。しかし本部から会則等完備せねば認定しないと

の指示で、活動は活発に行っていたが正式発足は昭和四十八年一月二十八日となっている。

坂本節夫 松高一期(昭25年卒) 氏談

当時の資料を見ると、会の原点の項に、先達の心(意志)「赤山から続いている共通の哲学(赤山健児魂)結束力と質実剛健、文武両道」の下に集いて、目的達成に貢献すると共に、各界に「双松」の名を高らしめる。そして実践活動の項には、伝統的精神(ア)長幼の序(イ)会員としての品格(ウ)共通の哲学を持つ者として互いに理屈抜きで心を通わせて互助する(エ)目的達成に向けて奉仕(旗が振られたら集う)とある。

まさに米子の地に於る双松会員の心意気、気概が伺い知れるところである。

平成十三年、米子双松会三十周年時には、双松会名簿から松本隆文氏(昭25卒)らが拾い上げ六〇〇名弱の名簿が出来上がった。

現在、実質活動者は高齢化と若手不足に直面してはいるが河野祥三会長(昭和31年卒)の下、以下を定例的に行っている。

二月定例総会、夏の納涼会、この時は会員による為になる

肩の凝らないミニ講演、秋のバス旅行、本年は十二月に美保関へ伝統神事を観る会、ゴルフ部会は今年から回数を増やし月一回の親睦コンペ、そして忘年会。昨年は「米子双松会」の文字を染め抜いた立派な校章幕と校歌幕を作り、結束と発展を図っている。若手の参加を切望している。

連絡先 米子双松会事務局 〒689-13402

米子市淀江町淀江771 0859-156-2315

中西 秀夫方

広島双松会

地区だより

広島双松会 副会長

大木 洋昭(昭37年卒・13期・北高1期)

「広島双松会」は、平成十八年十月に「双松会」六番目の支部として発足し、今秋には五期目を迎えます。

この間、会員・役員の増強、会運営・諸活動の充実、更には会員相互の連携、経験交流の促進を図りながら、「思い出・楽しさがいっぱい」の組織づくり・活動を目指してまいりました。

個人情報保護法の制約の中、関係者の口コミ等で現在、七〇〇名程度の卒業生を把握しております。

しかし、総会出席、活動参

加の会員は一部に限られているのが現状です。

現在、山岡俊英会長(昭和32年卒・8期)を先頭に、総会・活動への出席者を増やす努力を鋭意重ねております。

その一環として、昨年の総会には、姉妹校である松江南高、同東高の卒業生にもお声をかけし、それぞれ六名、二名の方々に御出席をいただき、総会に華を添えていただきました。

今後とも、会員の増強を柱とする組織強化を最優先課題とし、次の当面の方針・行事に取り組んでまいりますので、皆様方の御支援、御協力をお願いいたします。

一、本年度の活動方針

一、総会出席者の拡大、役員会の一層の充実

二、納涼親睦会の実施(8月4日)

三、ゴルフコンペの開催(年2回程度)

二、本年度総会・懇親会

一、日時 11月13日(土) 16時~19時

二、場所 広島ダイヤモンドホテル 広島市西区観音新町 2丁目4-6

三、催事 ヴァイオリン演奏

広島県及び隣接する岡山県、山口県に在住、就学・勤

務等の松江中(北)高卒業生の皆様で「広島双松会」に御入会又は「第5回広島双松会総会」に御出席いただける方は、左記の事務局まで御連絡ください。

広島双松会行事予定

一、納涼親睦会 日時 平成22年8月4日(土) 場所 広島三越 屋上ビアガーデン

二、親睦ゴルフコンペ 日時 平成22年9月26日(日) 場所 宮島志和カンツリー倶楽部(東広島市志和町)

三、第5回総会・懇親会 日時 平成22年11月13日(土) 場所 広島ダイヤモンドホテル

お申込み・連絡先

広島双松会幹事長

石原 通弘

〒739-1742

広島市安佐北区亀崎1-29-26

TEL&FAX

(082) 842-11416

携帯電話

090-95007-23312

E-mail ishihar2296@gmail.ne.jp



平成二十二年役員会総会報告

七月二十四日、サンラポーむらくもにおいて今年度の役員会総会が開催された。

庄司肇会長の挨拶、勝部昌幸校長による北高近況報告の後、会長を議長に議事に移り、次の議題について協議・報告がなされた。

今年度は役員改選期ではないが、諸事情により退任された山口榮一氏の後任として監事として栗原康郎氏が新たに就任された。また三月に田中竹次郎副会長がご逝去なされ、副会長職は1名減でのスタートとなった。

【議題】

- 一、平成二十一年度会務報告、決算報告、監査報告
- 二、監事の選出・紹介
- 三、平成二十二年会務計画

予算(案)審議
四、平成二十三年度発刊予定の双松会名簿について

【報告】

- 一、二本松に関する報告
- 二、会報の発行
- 三、平成二十三年開催の百二十五周年記念行事について
- 四、資料室の整備について

【役員】

- 会長 庄司 肇
- 副会長 山本 隆志
- 金津 任紀
- 菅野 恵子
- 勝部 昌幸(校長)
- 金平 憲
- 景山 直観
- 庄司 尚史
- 古瀬 誠
- 栗原 康郎
- 永瀬 嘉之(教頭)
- 幹事長 金平 憲
- 副幹事長 景山 直観
- 監事 庄司 尚史
- 古瀬 誠
- 栗原 康郎
- 事務局長 永瀬 嘉之(教頭)



平成22年度 双松会会計予算書(案)

平成21年度 双松会会計決算書

収入総額 5,938,178円
支出総額 4,266,471円
差引残高 1,671,707円

【収入】

| 費目 | 本年度予算 | 昨年度予算 | 増減 | 備考 |
|-----|-----------|-----------|----------|---|
| 入会金 | 2,453,200 | 2,484,400 | △ 31,200 | 全日制延べ 11,016人×200円(918名×12ヶ月) 通信制 100人×2,500円 |
| 繰越金 | 1,671,707 | 1,397,589 | 274,118 | 平成21年度からの繰越金 |
| 繰入金 | 1,500,000 | 1,500,000 | 0 | 会報編集助成金会計より |
| 寄付金 | 0 | 0 | 0 | |
| 雑収入 | 5,093 | 8,011 | △ 2,918 | 預金利息等 |
| 合計 | 5,630,000 | 5,390,000 | 160,000 | |

【支出】

| 費目 | 本年度予算 | 昨年度予算 | 増減 | 備考 |
|-------|-----------|-----------|----------|------------------|
| 会議費 | 200,000 | 200,000 | 0 | 常任幹事会、役員会、各地総会補助 |
| 会報発行費 | 3,600,000 | 3,550,000 | 50,000 | 会報印刷・発送代 |
| 通信事務費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 役員会案内・資料送付代 |
| 記念品費 | 550,000 | 550,000 | 0 | 卒業記念品・卒業証書用丸筒代 |
| 旅費 | 500,000 | 400,000 | 10,000 | 各地総会への本部役員派遣旅費 |
| 人件費 | 150,000 | 50,000 | 10,000 | 資料室の整備 |
| 雑費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 慶弔費等 |
| 予備費 | 530,000 | 540,000 | △ 10,000 | |
| 合計 | 5,630,000 | 5,390,000 | 240,000 | |

【収入】

| 費目 | 予算額 | 決算額 | 増減(△) | 備考 |
|-----|-----------|-----------|---------|------------------------------------|
| 入会金 | 2,484,400 | 2,700,000 | 215,600 | 全日制延べ 11,100人×200円 通信制 192人×2,500円 |
| 繰越金 | 1,397,589 | 1,397,589 | 0 | 平成20年度からの繰越金 |
| 繰入金 | 1,500,000 | 1,500,000 | 0 | 会報編集助成金会計より |
| 寄付金 | 0 | 340,000 | 340,000 | 19期、10期、28期、6期 |
| 雑収入 | 8,011 | 589 | △ 7,422 | 預金利息 |
| 合計 | 5,390,000 | 5,938,178 | 548,178 | |

【支出】

| 費目 | 予算額 | 決算額 | 残額(△) | 備考 |
|-------|-----------|-----------|-----------|-------------------|
| 会議費 | 200,000 | 174,703 | 25,297 | 常任幹事会、役員会、各地総会補助 |
| 会報発行費 | 3,550,000 | 3,033,739 | 516,261 | 会報印刷・発送代(24,419通) |
| 通信事務費 | 50,000 | 29,860 | 20,140 | 役員会案内・資料送付代 |
| 記念品費 | 550,000 | 505,133 | 44,867 | 卒業記念品・卒業証書用丸筒代 |
| 旅費 | 400,000 | 448,920 | △ 48,920 | 各地総会への本部役員派遣旅費 |
| 人件費 | 50,000 | 50,000 | 0 | |
| 雑費 | 50,000 | 24,116 | 25,884 | 香典・弔電代 |
| 予備費 | 540,000 | 0 | 540,000 | |
| 合計 | 5,390,000 | 4,266,471 | 1,123,529 | |

平成二十一年度

通信制同窓会役員会報告

七月十日(土)に、開校間も
ない県立宍道高校におい
て、役員三十名、学校から
松江北高校校長の代理とし
て真田宍道高校校長を始め
四名が出席して役員会を開
催しました。

役員会の後、正門に掲げ
られている「松江北高等学
校通信制課程」のプレート
を背景に記念撮影をし、新
校舎の見学の後、会を終え
ました。

なお、役員会において、
同窓会事務局を平成二十四
年度末まで宍道高校内に置
くことが了承されました。

【通信制課程の
今後について】

今春開校した宍道高校に
おいて、現在一、六〇〇名
の北通籍の生徒が学んでい
ます。平成二十五年三月の
閉課程まで残すところ三年
となり寂しい限りではあり
ますが、在籍生徒には一人
でも多く卒業を果たされ、
同窓生が増えることを願っ
ています。

宍道高校で同じ通信制課
程に学びながらも、卒業の
後は、一方は「北通籍」ま
た一方は「宍道高校籍」と
いう関係が生じることに戸
惑いを感じている生徒の声
も聞き、今後の同窓会のあ
り方を考えさせられました。

平成22年度 予算

平成21年度 決算報告

収入総額 1,619,226円
支出総額 447,479円
残 額 1,171,747円
(次年度会計へ繰越)

【収入の部】

| 款 | 項 | 21年度予算 | 22年度予算 | 増減(△) | 備 考 |
|-----|---|-----------|-----------|---------|------------|
| 繰越金 | | 1,023,957 | 1,171,747 | 147,790 | |
| 会 費 | | 540,000 | 462,000 | △78,000 | 3,000円×154 |
| 雑収入 | | 43 | 253 | 210 | 預金利息 |
| 合 計 | | 1,564,000 | 1,634,000 | 70,000 | |

【収入の部】

| 款 | 項 | 21年度予算 | 21年度決算 | 増減(△) | 備 考 |
|-----|---|-----------|-----------|--------|-----------------------|
| 繰越金 | | 1,023,957 | 1,023,957 | 0 | |
| 会 費 | | 540,000 | 585,000 | 45,000 | 3,000円×195 |
| 雑収入 | | 43 | 10,269 | 10,226 | 預金利息、全国定通 体育大会助成戻入 |
| 合 計 | | 1,564,000 | 1,619,226 | 55,226 | |

【支出の部】

| 款 | 項 | 21年度予算 | 22年度予算 | 増減(△) | 備 考 |
|-----|---------------|-----------|-----------|---------|------------------|
| 会議費 | | 104,000 | 104,000 | 0 | |
| | 役員会 | 100,000 | 100,000 | 0 | 会場使用料他 |
| | 監査会 | 4,000 | 4,000 | 0 | 旅費他 |
| 事業費 | | 480,000 | 427,000 | △53,000 | |
| | 在 校 生 活 助 成 | 380,000 | 327,000 | △53,000 | 宍道高校FTAへ一 括拠出 |
| | 地区同窓 会 助 成 | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| 事務費 | | 10,000 | 10,000 | 0 | 通信費他 |
| 予備費 | | 970,000 | 1,093,000 | 123,000 | |
| 合 計 | | 1,564,000 | 1,634,000 | 70,000 | |

【支出の部】

| 款 | 項 | 21年度予算 | 21年度決算 | 増減(△) | 備 考 |
|-----|---------------|-----------|---------|------------|---|
| 会議費 | | 104,000 | 60,807 | △43,193 | |
| | 役員会 | 100,000 | 56,807 | △43,193 | 会場使用料・記念写真代他 |
| | 監査会 | 4,000 | 4,000 | 0 | 旅費 |
| 事業費 | | 480,000 | 281,715 | △198,285 | |
| | 在 校 生 活 助 成 | 380,000 | 261,715 | △118,285 | 全国大会生徒助成 (5,000円×18) 全国生活体験発表会 生徒助成(10,000円) 全国定通大会引率旅費 (73,200円×1) 講演会講師謝礼 (12,000円) 遠足貸切バス代金 (76,515円) |
| | 地区同窓 会 助 成 | 100,000 | 20,000 | △80,000 | 関西地区(一件) |
| 事務費 | | 10,000 | 9,760 | △240 | 通信費他 |
| 予備費 | | 970,000 | 95,197 | △874,803 | 「さよなら赤山校舎」事業費 |
| 合 計 | | 1,564,000 | 447,479 | △1,116,521 | |

北高生の活躍

全国高校
定通体育大会

東京都・神奈川県を中心に開
催され、本校・宍道高校から3
競技種目に参加しました。

○出場競技種目

・バドミントン

男子団体1回戦

1対2 岩手

男子シングルス1回戦

錦織光希(宍定)

0対2 久保拓也(香川)

女子シングルス1回戦

山根 唯(宍定)

0対2 細川 夢(宮城)

陸上競技

池上拓弥(北通)

一〇〇M予選4位

錦織研介(北通)

八〇〇M予選4位

一五〇〇M予選9位

剣道

古瀬弘治(宍定)

1回戦

梅 新井佑規(群馬)

2回戦

一 メメ 竹崎匡洋(高知)

島根県高等学校
総合体育大会

○総合成績

男女総合Aグループ

1位 3年連続23回目
男子総合Aグループ

1位 3年ぶり11回目
女子総合Aグループ
1位 3年連続13回目
5月下旬から6月上旬に行わ
れた県総体では県内各地で北高
生が大活躍をし、総合優勝3連
覇を成し遂げました。

全国高等学校
総合体育大会

沖縄県を中心に「インターハ
イ」が行われ、県の代表として6
種目に出場しました。

○出場種目

・バドミントン部

・陸上部

四〇〇M 6位入賞

3年 末光眞子

四〇〇MH 5位入賞

3年 糸原 綾

・ボート部

・体操部

・新体操部

・水泳部



陸上部3年 糸原 綾

辛い時期、家族の支えや、
友人の励まし、先生の言葉に
助けられました。

そういう人たちのおかげ
で、最後まで楽しく走ること
ができ、貴重な経験ができた

した。
心から感謝し、これからも
新たな目標に向けて努力して
いこうと思います。

全国高等学校 総合文化祭

宮崎県を中心に行われた高総
文祭に本校から6部門が参加し
ました。

○参加部門

- ・文芸部
- ・囲碁・将棋部
- ・百人一首かるた部
- ・放送部
- ・美術部
- ・箏曲部
- ・弦楽同好会



美術部二年 井原 章太

昨年の十月から十二月の前
半までの長い間、描き続けた
油絵が県内で推薦され、約半
年たった今年の八月に宮崎で
開かれた、全国高校文化祭に
出展かつ出場することができ
ました。

会場は県立美術館、広い芝
生の公園の中にあつたので、
とてもドッシリとしていて印

象に残っています。美術館に
入り、各県の作品を見て回る
と、想像していた以上の感動
と、衝撃と、刺激がありまし
た。目に入るすべての情報が
新鮮でたくさん学ぶことがで
きました。作品は3年生の作
品が大半を占めていました。
どれもこれも無駄がない作品
が多く、プロ意識を感じまし
た。一日目には作品の講評が
あり、プロの先生の意見はと
ても参考になりました。二日
目の交流会では他県の同じ高
校生と始めから終わりまで話
していました。

全国高等学校 囲碁選手権大会出場 全国八位入賞

囲碁・将棋部二年

尾原 萌華

今年も全国大会に出場で
き、貴重な経験をすることが
できました。今年、勝負ど
ころでのミスが目立ちまし
た。来年は「勝負」を意識し
た内容の碁が打てるように一
年間努力していきたいと思
います。

☆全国大会に出場して☆

陸上部三年

末光 眞子

私の三回目のインターハイ
が終わった。

個人種目の四〇〇メートル
は、決勝をふり返ってみると、
ただ悔しい気持ちのみが残っ
た。今回は予選、準決勝と走
るにつれて、とても調子が良
く、いつもの地区大会などと
は全く走りが違いこれはいけ
ると自分の中で手応えがあつ
た。しかし結果は六位。念願
だった決勝の舞台で走れて嬉
しいという気持ちがある反
面、心の底から喜べない自分
がいた。

今まで自分なりに一生懸命
頑張ったつもりだった。イン
ターハイで自分の納得のいく
結果を残して笑顔で部活動を
終わろうと思ひ練習してきた。
だけど結果はこれだった。こ
の三年間、頑張ってきたこ
なものかと思ひ不甲斐なかつ
た。指導していただいた先生
や、応援して下さった先生方、
保護者の皆様、友達、そして
私を支えて下さったまわりの
たくさんの人達に恩返しので
きなかった。そのことが残念
だった。

しかし、その気持ちを忘れ
ずに、四×四〇〇メートルリ
レーに臨んだ。私は個人種目
の二〇〇メートルを棄権して
このリレーに集中することに
決めた。リレーメンバー全員
で気持ちを奮い立たせ、それ
ぞれが自分の力を信じて全力
を出し切れば、決勝に進出で
きると信じていた。でも、レー
スの途中、皆でつなぐはずの
バトンを落としてしまったの
だ。私は初め何が起こったの
かわからなかった。目の前で
起こったことが信じられな
かった。後はゴールを目指し
て走るだけだったけれど、涙
が出て止まらなかつた。そし
てこの気持ちをどうしたらいい
のかわからなかつた。もう
これで、このリレーメンバー
で走ることはないだろう。で
も最後にもう一本だけでいい
から走りたかつた。そして二
年の全国大会の時のように、
先生に喜んでほしかつた。

全体的な結果をみると、悔
しいという一言に尽きると思
う。しかし、去年より少しで
も成長した部分を全国の舞台
で多くの方に見てもらったこ
とができたことは良かったと思
っている。
私はこれまでたくさんの方

に支えられてきた。順調にい
くことばかりでなく故障して
しまい、満身に練習がこなせ
ず、悩んだこともあつた。で
もいつもまわりのたくさんの方
人に励まされ、応援しても
らつてきた。そして指導して
いただいた先生、陸上部の仲
間たち。本当に感謝している。
本当にありがとうございま
した。
これからもこの経験を生か
して頑張りたいと思う。



本年度の進路状況

【進路状況】

新型インフルエンザの影響が心配された平成二十二年度の大学入試センター試験は、大きな混乱もなく実施されました。この試験の確定志願者数は五五万人余りで、前年より九千人余り増加しました。増加の要因としては、国公立大学志向の一層の高まりや、ここ数年目立ってきた既卒生の再受験などの影響があると思われる。五教科七科目の総点では、物理・化学の大幅な平均点ダウンや数学I・Aの難化により、理系型で約三〇点のダウンとなり、理系受験者には厳しい結果となりました。

今春の卒業生は、県高校総体で総合優勝二連覇を果たし、インターハイにも多くの選手が出場しました。また、文化系でも合唱部の全国大会銀賞の他、三重県で行われた夏の全国高校総合文化祭にも百人一首かるた部を始めとして多くの部が参加するなど、学校全体が部活動の活躍で活気づきました。

受験においてもその勢いは衰えず、センター試験における平均点の大幅ダウンにも影響されず、国公立大学の合格者は二五八名を数え、一学年八クラスとなった過去三ヶ年で最高の数字を残しました。

東京大学・京都大学の合格者がそれぞれ五名、九州大学が一三名など旧七帝大を含めた難関大学の合格者数は四二名でした。また、国立大学医学部の合格者も、岡山大学の三名を中心に一四名とすばらしい結果を残しました。私立大学は、延べ二六六名が合格しましたが、昨年と比べて九〇名余り減少しました。こうしたところにも景気の低迷が反映していると思われる。今年も三年間部活動に頑張った生徒の多くが、東京大学を始めとして自らの志願校に合格したことは、本校の「文武両道」の精神が生徒達に脈々と受け継がれていることを感じさせてくれました。

【不易と流行】

今年の五月末に「高大接続テスト(仮称)」についてその調査研究委員会から指針が明示されました。現在の大学進学率は平成二十年で四九%余りとなり、短大を含めると約五五%であり、まさに「ユニバーサル段階」に到達しました。このため、大学・短大の志願倍率は年々低下し、殊に私立大学では定員充足率が一〇〇%に満たない大学が約四七%に及ぶに至りました。このため、学力試験に課す教科科目数の減少が生じると同時に、推薦入試やAO入試などの学力試験を課さない選抜が増え、その入学者が四割を超えている状態です。こうした状況の中で、大学に入学してくる学生の基礎学力の低下が大学で問題とされるようになってきました。そのため、大学では専門科目の履修に必要な科目(例えば物理・化学)や英語の補習授業を行うところも増えてきました。そうしなければ、専門教育が十分に行えない、単位修得が難しいという理由からです。こうした状況に対して、目標準拠

に、推薦入試やAO入試などの学力試験を課さない選抜が増え、その入学者が四割を超えている状態です。こうした状況の中で、大学に入学してくる学生の基礎学力の低下が大学で問題とされるようになってきました。そのため、大学では専門科目の履修に必要な科目(例えば物理・化学)や英語の補習授業を行うところも増えてきました。そうしなければ、専門教育が十分に行えない、単位修得が難しいという理由からです。こうした状況に対して、目標準拠

進路状況

平成22年度入試学校種別合格者延べ数及び就職者数 (平成22年4月集計)

| | 平成20年3月 | | | 平成21年3月 | | | 平成22年3月 | | |
|-------|---------|-----|-----|---------|-----|-----|---------|-----|-----|
| | 現 | 卒 | 計 | 現 | 卒 | 計 | 現 | 卒 | 計 |
| 国立大学 | 141 | 49 | 190 | 138 | 40 | 178 | 177 | 36 | 213 |
| 公立大学 | 34 | 9 | 43 | 31 | 8 | 39 | 41 | 4 | 45 |
| 私立大学 | 243 | 125 | 368 | 244 | 111 | 355 | 199 | 70 | 269 |
| 短期大学 | 55 | 0 | 55 | 51 | 3 | 54 | 34 | 0 | 34 |
| 専門学校等 | 15 | 1 | 16 | 33 | 0 | 33 | 20 | 1 | 21 |
| 就職 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 合計 | 488 | 184 | 672 | 497 | 162 | 659 | 473 | 111 | 584 |
| クラス数 | 8クラス | | | 8クラス | | | 8クラス | | |

型の達成度テストである「高大接続テスト」を実施する必要があるという意見が高まってきました。こうしたことの要因の一つには、極端に受験科目を絞った学習をする生徒(受験生)が増えてきているからではないでしょうか。

本校の進路指導では、大学進学してから、さらにその先の将来を見据えての指導を大切に行っています。そのため、生徒にはすべての教科・科目に全力で取り組むこと、さらには学校生活におけるすべての教育活動、例えば部活動・生徒会活動・清掃などにも全力で取り組むことを強調しています。もちろん、希望する大学に合格することは大切ですが、「今学べべきこと」「今取り組むべきこと」に正面から向き合うことで、今すぐにはないかもしれないかもしれませんが、きつと自分にとって役立つことがあるはずなのです。

一昨年の十二月には新しい高校の教育課程が発表され、再来年度から一部が先行実施されます。大学も入試制度を始めとしてそのあり方が大きく変化しつつあります。本校に入学してくる生徒の気質や考え方も年々変わってきています。こうした学校を取り巻くさまざまな環境の変化に的確に対応していくと共に、北高として「変えない、変わらない」部分を大切にしていきたいと考えています。

編集後記

最近数枚の古い写真を目にする機会がありました。双松の見事な大木を背に整列した集合写真と、丘に上がり幹にもたれたり石段に腰を下ろして各々寛ぎ語り合う姿のスナップでした。それらは立派な松の存在が如何に学生生活と密につながっていたかを物語るものでした。

二代目松を守るための懸命な努力が為されています。今年の会報は二本松特集でお届けします。

さて、来年は創立百三十五年総会が開催されます。沢山の参加で盛会となりますよう、どうぞお出かけください。

同窓会を開催された各期からご寄付を頂きました。ご報告し御礼申し上げます。会報発行は苦しい経費の中から少しでも充実したものが作れるよう努力しています。会員の皆様、これから同窓会を開催される際に多少でも余剰金がありましたら、是非とも双松会にご寄付頂けますようお願い申し上げます。

母校と会員相互の情報交流の場である双松会報に、ご投稿やご提案、ご意見をどうぞお寄せ下さいませ。

(M・Y)

平成22年9月

松江北高校同窓会「双松会」会員の皆様へ

双松会
会長 庄司 肇

同窓会名簿「双松」(平成23年版)の発行について

拝啓 会員の皆様にはますますご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、平成22年7月24日に開催されました双松会役員会総会にて、5年毎に作成しております同窓会名簿「双松」を平成23年11月に発刊すること、および今まで地元の印刷会社で会員のデータの管理・メンテナンスおよび名簿の印刷を行っていたものを名簿専門業者に委託することが認められました。

【業者委託の理由】

- ① 安く販売できる(今回1冊5,000円)ことにより、双松会会員も買いやすくなるため、多数の会員に名簿を持ってもらえる。
- ② 前回通りに発刊すると会計的に赤字になってしまうが、業者委託した場合、かなりの黒字になる。また、会員の移動・追加等のメンテナンス料が、無料になる。(現在は、毎年126,000円のメンテナンス料を支払っている。)
- ③ 不明者の情報収集がなされることにより、双松会会員にとって正確で多量の情報を手に入れやすい。
- ④ 島根県下の高校の30校弱ですでに名簿専門業者に名簿の発行を委託している。
- ⑤ 名簿発刊に携わる方々(双松会および北高の教員)の負担が軽減できる。名簿に関する業務は、ほとんど北高の教員(北高卒の)で行っているが、その数が激減し、さらに短い勤務年数で転勤するため、5年ごとに発刊される名簿の業務を十全に履行することが困難になってきている。

【名簿作成スケジュール】

平成23年11月発刊予定ですが、今までと多少名簿作成の手順が異なるところがありますので下記に作成スケジュールを記します。

| | |
|---------|--------------------------|
| 平成22年9月 | 台帳作成 |
| 12月 | 第1回調査カード発送 |
| 23年2月 | 第1回名簿予約者への住所等のわからない方の調査 |
| 2月 | 第2回調査カード発送 |
| 4月 | 第2回名簿予約者への住所等のわからない方の調査 |
| 4月 | ハガキ返信のみの方への住所等のわからない方の調査 |
| 5月 | 不明者の電話調査 |
| 8月 | 最終データチェック |
| 10月 | 印刷、製本 |
| 11月 | 発送 |

【調査カード発送について】

送り先が判明している全会員に調査カード(情報保護シール付きの往復ハガキ)を送付して、個人の情報を調査します。また、個人情報収集の利用目的等を明記し掲載の意志確認を行い、名簿の予約と一言メッセージを集めます。

【名簿予約者への不明者調査/不明者名簿による情報収集について】

すべての期不明者名簿を作成して情報を得ます。すべての期不明者を一括表記することにより、横だけでなく縦のつながりからも情報を収集します。

【名簿の規格・体裁】

発刊する名簿の規格・体裁は前回とほぼ同じです。今回は、CD-ROMを名簿巻末に貼付します。このCD-ROMには、校歌や調査カードに記入していただいた一言メッセージ等を収録する予定にしています。

【個人情報保護法について】

前回の名簿発刊から同窓会名簿も個人情報保護法の規制を受けています。そのため次のような手続きを行い、名簿の発刊をします。

今回の名簿発刊に関わる業務をする会社は、平成18年8月4日に日本情報処理開発協会よりプライバシーマークの付与認定を受けた信頼できる業者です。

- ① 「個人情報保護法の基本方針」の策定と開示をします。
- ② 「個人情報取扱に関する契約書」を名簿業者と締結します。
- ③ 個人情報の適正な取得や利用目的の通知をします。
- ④ 調査ハガキで名簿に関する種々の同意事項の確認をします。

【その他】

双松会としましては、現在、会の組織を維持・発展する基礎として、同窓会名簿と毎年1回の「双松会報」配布は必要不可欠のものという認識を強く持っております。同窓会名簿「双松」を一層充実・正確なものにするため、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。また、是非、ご購入をお願いします。

送付されます調査カード(情報保護シール付き往復ハガキ)の返信先宛名および往復ハガキの差し出し名は、どちらも島根県立松江北高等学校同窓会(双松会)です。その他の名簿会社からのハガキは同窓会とは無関係です。

「名簿への掲載を認めない」会員でも、会報の発送等に会員データ登録は必要ですので、送付されます調査カードに氏名・現住所等に変更・訂正があれば訂正欄に記入のうえ、ご返送下さい。

*発行予定：平成23年11月

*予定価格：5,000円

*名簿に関する業務担当業者：株式会社旭出版 熊本県上益城町大字広崎497-2